

結果(市民参加) (平均的意識値 市民 = 1.10 行政 = 1.27)

回答の数値化 : a(2点) = 肯定する(はい)、 b(1点) = どちらかと言えば肯定する、 c(-1点) = どちらかと言えば否定する、 d(-2点) = 否定する(いいえ)、未記入(0点) = 該当せず

区分 : 市民・行政それぞれの全体の平均値に対し、 = 市民・行政ともに全体の平均値を上回ったもの、 = 市民・行政ともに全体の平均値を下回ったもの、 = 市民・行政の数値に0.5ポイントを超える開きがあったもの

全体的な傾向	<p>A - 1 ~ E - 4の設問に対する意識数値の平均値は 市民 = 1.10、行政 = 1.27 となっており、全体的に見ると双方の間に大きな意識差は無く、満足度が比較的高い結果となった。</p> <p>A ~ Eのブロックごとに見ると、A(募集の段階)で行政が市民よりも平均で約0.5ポイント、同じくC(取りまとめの段階)で約0.6ポイント高く評価しており、E(推進方策の有効性)では市民が行政よりも約0.6ポイント高く評価をしており、意識差が見られる結果となった。また、B(審議・検討の段階)とD(意識度)においてはともに高い数値となっており、数値の開きは見られなかった。</p> <p>個々の項目を見た場合、特にC - 3(情報の開示)に対しての意識差が大きくあらわれて結果となった。</p>
--------	---

Aブロックの傾向	<p>・全体的に見れば、A - 1 ~ 4の市民の平均値が0.95となっており、現状に概ね満足した結果となった。行政の平均値が1.46と高くなったことから、数値をグラフ化して比較した場合、市民と行政の意識に乖離が見られる結果となった。</p> <p>なお、市民回答を公募委員とそれ以外の委員に区分して平均値を見ると、公募委員の平均値が高めとなった。特に情報の得やすさについては0.8ポイントの開きとなっている。また未回答が約2割となったが、団体推薦の委員が回答を保留した傾向にあった。</p>
----------	--

区分	設問	市民の回答値		結果	市民の主な自由意見	行政の主な自由意見
		上	中			
			行政の回答値			
			差(A - B)			
	A - 1	市民	0.82	<p>・情報入手について、行政は9割超が比較的容易と感じているが、市民は6割にとどまり、否定的とする回答が2割を超え、グラフ上の意識差があらわれた。なお、市民の未記入回答は、団体推薦の委員と行政職員から情報を入力した委員の回答となっている。</p>	<p>・広報やホームページでの応募では、新聞を取っていない家庭や、パソコンのない家庭には周知しにくいので、それ以外の方法で募集することも検討した方が良い。</p> <p>・どんな形で、どんな方法で発信しても見ない人は見ないので、現状でよかったと思う。</p> <p>( *その他 : 「行き届いていた」肯定意見1件、「さらに充実が必要」など4件あり)</p>	<p>・募集情報の市民周知は、現状では募集方法が限られており、広く市民周知が行なわれているとは言いがたく、さらなる工夫が必要と思われる。</p> <p>( *その他 : 「さらなる工夫が必要」1件あり)</p>
	行政	1.5				
	差	-0.68				

区分	設問	上 中 下	市民の回答値 行政の回答値 差(A - B)	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
	A - 2	市民 行政 差	1.29 1.52 -0.23	・募集の時期について、市民の約7割、行政の約9割が肯定的に回答した。また未回答が約2割となったが、団体推薦の委員が回答を保留した傾向にあった。	・任期を二年としているが、募集及び決定（委嘱）及び第1回会議を遅くとも5月頃までにすることによって、活動を早めることができる。 （*その他：「募集期間が短い」1件あり）	・準備期間が少ない中で、会議の構成メンバーを考え依頼しなければならなかったことや、会議の目的が特化していることから、現状の募集方法で適切だったと思う。
	A - 3	市民 行政 差	0.91 1.36 -0.45	・情報内容について、行政は9割超が比較的適切と感じているが、市民はb回答が37%、c回答と未記入回答がそれぞれ約2割となったため、意識差があらわれた。未記入回答は、A - 1・2と同様の理由。	・開催の予定など、年間の計画についての情報がもう少しあればよい。 ・会議の目的について、広報では精一杯だろうけれど、もう少し詳細に示してもよかったと思う。 （*その他：「事前情報の不足」1件あり）	・会議の機能・役割、市民と行政の関係論（地方分権・パートナーシップ・協働論）などの基本的事項の理解を深めていくことに時間を掛けることが必要。
	A - 4	市民 行政 差	0.79 1.44 -0.65	・会議の構成員について、行政は約9割が肯定的回答を行なっているが、c回答が1割を超えている。また、市民は、b回答が約5割、c、d、未記入回答をあわせ約3割となったことから意識差が見られる結果となった。	・市民参加は必ず今後の市の発展に役立つと思う。したがって、公募は若干増員しても良いのではないか。 ・合併により、今後は人員、割り振り増員すべき時期になったのではないか。 （*その他：「増員・構成の充実を望む」・「構成が良かった」・「選考基準等」など12件あり）	・性別や年齢等を考慮する必要があった。 ・構成人員が多すぎた。 ・会議の目的が特化していることから、募集方法は適切だった。

Bブロックの傾向			<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議・検討の段階では、市民・行政の間での意識差はほとんど見られない。</li> <li>・B - 4はさらなる市民参加の推進的な設問であるため、これを除いた設問では高い評価となっている。</li> </ul>			
区分	設問	上 中 下	市民の回答値 行政の回答値 差(A - B)	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
	B - 1	市民 行政 差	1.16 1.13 0.03	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日程については、市民と行政の意識差はなかった。</li> <li>ただし、市民の9割は肯定的に見ているが内5割がb回答となっていること、行政も2割がc回答をしていることから、改善すべき課題あることが推察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傍聴者が少ないなど、平日の昼開催は、市民にとって参加しにくいと思われる。</li> <li>・会議の時間が長すぎたと思う。2時間程度が限界ではないか。回数を増やして解決を図る。</li> <li>( * その他：「決定方法は妥当」・「早期周知が必要」など4件あり )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の開催について、委員すべての日程を調整した上で行なっていたが、学識経験者(委員長等)の都合を優先する部分もあり、同一曜日にならざるを得ず、公募市民の都合がつかないことがあった。</li> <li>・平日の夜間に会議を開催するなど、勤労者でも参加しやすいものとした。</li> <li>( * その他：「日程決定方法について」など2件あり )</li> </ul>
	B - 2	市民 行政 差	1.63 1.63 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料・説明のわかりやすさについて、市民・行政の意識差はなく、双方ともに高い数値となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料は事前に配られ、よく検討されていて優れていたと思う。</li> <li>( * その他：「資料・説明がよく理解できた」など9件あり )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に会議資料を配布することによって、当日の会議をスムーズに運営できる。</li> </ul>
	B - 3	市民 行政 差	1.42 1.33 0.09	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言の機会について、市民・行政の意識差はなく、平均的な意識値も高くなっている。</li> <li>なお、市民・行政ともに約1割がc回答となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由な発言ができる場となっている。</li> <li>・進行役の議長の配慮で、出席者それぞれに発言の場(時間)を与えてもらった。</li> <li>・説明時間と意見を聞く時間を決めておいたら良いと思う。</li> <li>( * その他：「発言機会が不十分」・「審議内容の改善を」・「堅苦しい」など5件あり )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な視点で検討する本委員会と、市民の視点で検討する市民活動団体を別々に運営したことにより、双方それぞれが議論を深めることができ、また、本委員会で市民団体代表者が双方の連携を図る役割を果たしていた。</li> </ul>
	B - 4	市民 行政 差	0.29 0.35 -0.06	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会や委員会自体が、広く市民意見を聴取する場であることから、本設問に対する回答の数値は市民・行政ともに低くなっている。</li> <li>しかしながら、自由意見から、より幅広い層からの意見聴取の必要性や、現在の会議運営の中で創意工夫が行なわれている事例が見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートは広い意見ではないと思う。</li> <li>・会議の性質上、若い人の参加は難しいと思うが、生活に密着した事項には幅広い意見が必要なのではないか。</li> <li>・学識経験者が議論をリードしたので、地域の市民からの声をもっと聞く必要があったと思う。(タウンミーティングの開催など)</li> <li>( * その他：「広く市民意見を聴く工夫が必要」・「周知方法に課題」など9件あり )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プランの見直しの際に、パブリックコメント手続実施要綱における対象とはなっていないが、市民への意見募集を実施して市民意見を伺った。</li> <li>・会議の中でも、意見募集のあり方を問われたことがあった。ホームページの中で、議事録・会議資料の公開をし、意見募集を行なったが、意見が寄せられたことはなかった。</li> <li>( * その他：「意見聴取の機会を設けた、公開に努めた」・「周知方法に課題」など4件あり )</li> </ul>

Cブロックの傾向			<p>・取りまとめの段階においては、全体としてみた場合、市民と行政の意識差が見られる結果となった。 C - 1（取りまとめにあたっての検討経過の反映）を除き、市民の回答状況を見るとa・b・c回答が割れており、安定した評価が得られていない。 なお、取りまとめの段階に至っていないことから、未記入となっている割合も高くなっていることに注意を要する。</p>			
区分	設問	上 中 下	市民の回答値 行政の回答値 差(A - B)	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
	C - 1	市民 行政 差	1.46 1.81 -0.35	<p>・検討経過が取りまとめに反映されているかについて、市民・行政ともに8割以上が肯定的に見ており、双方とも高い数値となった。 なお、未記入回答が市民8%、行政16%あるが、現在審議途中であり取りまとめに至っていないものについての回答と推察される。</p>	<p>・政策に反映できないような意見も大切にしたい。 ・資料が多すぎて、ややその解説・説明が流動的になりがちである。</p>	<p>・委員からの意見・要望については、極力反映させるようにしている。 ・本委員会の検討経過は最大限に尊重して、計画を取りまとめた。</p>
	C - 2	市民 行政 差	0.97 1.52 -0.55	<p>・議論の熟度について、市民・行政ともに8割が肯定的に見ているが、市民はb回答に5割、c回答も1割を超えたことから全体的な平均値を下回り0.5ポイントの意識差があらわれた。</p>	<p>・結果については良いが、経過については時間不足のためか不十分。 ・内容と審議からとりまとめまでの会議回数がつりあっていない。 ・年3回程程度の会議では、実質何もできない。 ( *その他：「議論不足」・「方向性が見えない」など8件あり)</p>	<p>・公募委員を含めた自発的なワーキンググループが形成された。関係各課に対して、事業に関する実情や課題などのヒアリングを行うなどの積極的な活動が展開された。 ( *その他：「時間的制約」など2件あり)</p>
	C - 3	市民 行政 差	0.37 1.29 -0.92	<p>・審議経過・結果の公開について、行政は8割が肯定的回答をしているが、a・bの回答がほぼ同率であることから数値は高くなっていない。また、市民はc・d回答が約4割、a回答数も低くなっており、全体の中で大きな意識差となってあらわれた。</p>	<p>・せっかく取りまとめられた事柄（実施されている内容）が、あまり市民に伝わっていない感じがある。何らかの広報が必要ではないか。 ・委員自身も、自分達の所属している場に戻った時に伝えていく必要があると思う。( *その他：「方法の改善を」など9件あり)</p>	<p>・会議の結果については、情報公開室と市ホームページの閲覧のみとなり、市民にわかりやすいとはいえない状況にある。 ( *その他：「情報提供に努めた」1件あり)</p>
	C - 4	市民 行政 差	0.72 1.35 -0.63	<p>・審議結果が政策にどのように反映されたかについての情報提供の現状について、市民はb回答の比重が高く、c回答も2割を超えた。行政の数値は高くなっているが、市民と同じくb回答の比重が高くなっていること、取りまとめに至っていないことよっての回答保留が3割を超えていることから、的確な比較は難しいものと思われる。</p>	<p>・行政への提言の反映が二年後となる点について、スピードの時代に遅すぎるのではないかと感じる。 ・審議・提案しても、できないものはできないという側面もあるようだ。 ・行政の成果は長期的な視点で捉えないと判断できない場合が多い。</p>	

Dブロックの傾向			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D - 4 (負担感)を除き、全体を通して、市民・行政ともに高くなっており、大きな意識差は見られない結果となった。</li> <li>・ D - 1 (市民参加による成果)を除き、市民の意識が行政の意識を若干上回っている。</li> </ul>			
区分	設問	上 中 下	市民の回答値 行政の回答値 差(A - B)	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
	D - 1	市民 行政 差	1.41 1.68 -0.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民参加によって得られる成果について、市民・行政ともに高い数値になっており、大きな意識差はなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民参加は、市民自身の学びと参加意欲を高め、そのことによって市政が活発化されていくものと思う。 ( *その他：、「成果がある」・「成果不十分」など4件あり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 審査内容の専門性が高く、わからない部分があるとの意見があるが、専門分野からの意見だけでなく、いわゆる一般市民の感覚で意見をいただけることが有意義だと認識している。 ( *その他：「成果がある」2件あり)</li> </ul>
	D - 2	市民 行政 差	1.78 1.64 0.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民参加の継続意識について、市民は76%がaに、21%がbに回答しており、継続的関与について高い意識が見られる結果となった。また、行政も市民参加の成果を高く評価し、継続的参加を期待している結果があらわれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政の苦勞と前向きな姿勢が見え、理解ができた。今後とも協力していきたい。</li> <li>・ これからも是非参加し、市民としての貢献をして行きたいと考えている。 ( *その他：「今後も参加したい」3件あり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各委員とも、テーマに対する意識が高く、委員の委嘱期間が終わった後も目的達成に向けて市政への参加をしていただきたい。</li> </ul>
	D - 3	市民 行政 差	1.79 1.43 0.36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議成果とは異なる、関わったことによる個人的なメリットについて、市民の84%がa回答として非常に高い数値となっている。</li> <li>・ 行政の数値も高くなっているが、a、bに回答が分かれたことによって、数値の上の意識差となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議に参加したことによって、行政からのサービスを受動的に受けるのみではなく、より良い市政にしていくための能動的な市政になれたので大変良かった。 ( *その他：「勉強になった」など5件あり)</li> </ul>	
	D - 4	市民 行政 差	1.03 0.87 0.16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加に伴う負担意識について、市民・行政ともに約7割は負担意識がないと回答しているが、双方ともに約2割が負担を感じた(感じさせた)と回答したため、平均値が下がっている。したがって、市民と行政の意識差としてはあらわれていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識の不足もあって、荷が重い感じはした。</li> <li>・ 負担感はなかったが、もっと勉強しなくてはと痛感した。 ( *その他：「市民は行政の仕組みを知るべき」など4件あり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予想以上に議論が長引き、開催回数が10回にもなったので、相当の負担であったと思う。</li> </ul>

Eブロックの傾向			・より市民参加の推進を図るための方策として、3つのツールをあげ、その有効性に対する意識の回答を求めた。市民参加の拡大の必要性（E-4）について、市民回答は高い数値となっているが、3つの方策についてはいずれも平均的な意識となっている。行政の回答数値は、市民回答と傾向は一致するが、いずれも数値が下回った結果となった。			
区分	設問	上 中 下	市民の回答値 行政の回答値 差(A-B)	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
	E-1	市民 行政 差	1.08 0.75 0.33	・今後の市民参加の推進にあたっての手引き・、マニュアルの有効性について、市民回答では約8割が肯定しているが、行政はb回答48%、c・d及び未記入回答が36%に及ぶことから数値が下がっており、意識差があらわれた結果となった。	・手引き・マニュアルと言うよりは、会議の技術・ワークショップの進め方・ファシリテーションについて、広く学習の機会を設けるべきと考える。（*その他：「進行の重要性」・「マニュアルは不要」など8件あり）	・経験のない職員へのマニュアルは必要だと思う。 ・会議の内容等がしっかりしていれば、市民向けのマニュアルや事例集というものの必要性は感じない。（*その他：「周知の仕方の工夫」1件あり）
	E-2	市民 行政 差	1.05 0.8 0.25	・事例集の発行や発表会の有効性について、市民はa・b回答がともに4割（合計8割）を超えているが、行政はb回答の比重が高く、さらに約2割がc回答としていることから市民回答よりも0.25ポイント低い数値となった。	・具体的な取組に関する事例集を発行することは肯定するが、報告会については効果が期待できない。 ・担当する側には、具体的な事例を示したり、実践の場を多く体験したり感じてもらうことは必要だと思う。	・庁内で取り組まれている市民参加について、その情報やノウハウを共有することは重要であるが、担当者からの情報発信だけでは限界があるし、複数の課からの統一性のない情報では、受け取る側に伝わりにくいので、手引きやマニュアル、特に事例集などでイメージを伝えるのは効果的である。しかし、市民参加の目的や対象によって運営方法は様々なので、多くの職員が市民参加に関わりを持ち、経験者を増やしていくことも重要である。
	E-3	市民 行政 差	0.41 -0.38 0.79	・条例の有効性について、市民は約5割・行政は約3割が肯定的に見ているが、ともに約4割がc回答としていることから、双方が低い数値となった。A回答の開きが大きく、意識差につながった。	・条例制定は、ますます官主導、硬い感じがする。 ・条例は、つくると先駆的に見えるが、反面縛られてしまう恐れがある。反対に特区的な発想で進めるのが良いのではないか。	・条例を制定することが、市民参加の呼び水になるとは思わない。 ・市民参加を推進するため、条例整備や市民啓発を拡充することは重要であるが、行政側のより一層の情報提供等、意識改革も重要である。
	E-4	市民 行政 差	1.7 1.14 0.56	・市民参加の拡大について、市民の97%が肯定的回答をしており、数値が高くなっている。今後も市民参加の拡大が必要と考えていることが見受けられる。行政は、a.b回答の合計が76%に及ぶものの、b回答の率も高くc・d回答も12%となったことから、約0.6ポイントの意識差としてあらわれた。	・大いに市民参加の機会を希望する。 ・市民参加は、今後ますます重要になると思う。（*その他：「機会の拡大は有効」・「とりまとめて運営できる構成、バランス、人選が重要」など10件あり）	・人口の増加や合併による市域の拡大を踏まえると、市民参加の機会をさらに拡大することは必要である。（*その他：「機会の拡大が必要」・「情報提供等が重要」など3件あり）